



人を思う。未来を思う。

商工中金

2020年3月31日

商工中金 産業調査部

中小企業設備投資動向調査 [2020年1月調査]

(対象は断りのない限りすべて国内設備投資)

調査要旨

1 設備投資の有無…20年度の当初計画は前年同時期から減少

設備投資の2019年度実績見込(以下、「19実績見込」)では、実施(設備投資「有」)企業割合は全体の52.3%。前年同時期から微減。

2020年度当初計画(以下、「20当初」)では、設備投資「有」が全体の32.8%。前年同時期から減少。

2 設備投資の目的…「情報化関連」が上昇

19実績見込、20当初計画ともに設備投資目的の上位は「設備の代替」、「維持・補修」、「増産・販売力増強(国内向け)」の順。2016年度以降、情報化関連が上昇。

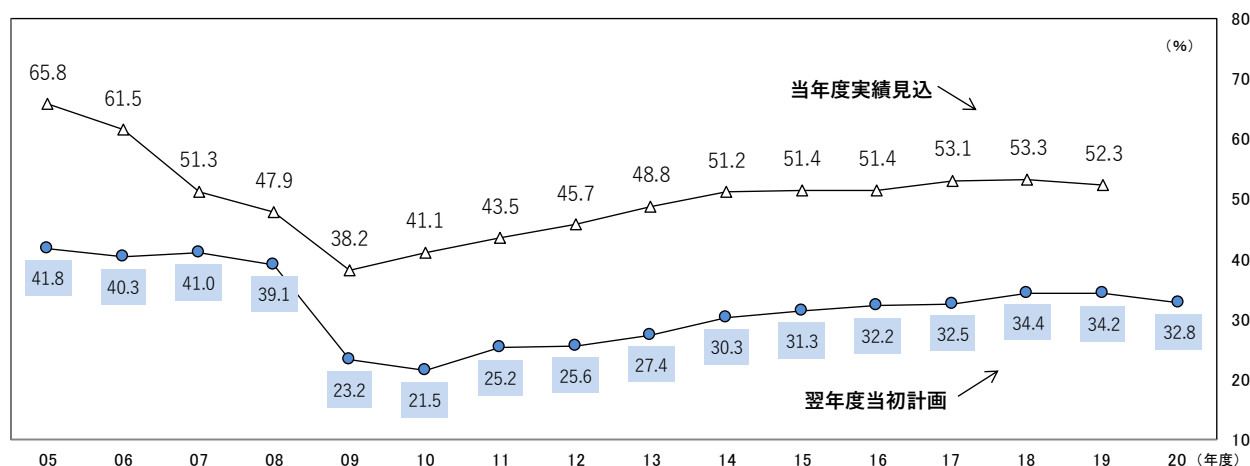
3 設備投資額の増減率…19年度実績見込は、3年ぶりのマイナス

全産業の設備投資額の増減率は19実績見込で前年度実績対比▲15.2%となった。実績見込時点でマイナスとなるのは、2016年度以来。20当初は19実績見込比▲33.4%。前年同時期(同▲26.5%)を下回る。

4 設備投資「無」の理由…20年度にかけ「景気の先行き不透明」が増加

19実績で設備投資を実施しない理由の上位は「現状で設備は適正水準」が最も多く、次いで「景気の先行き不透明」、「借入負担が大きい」。20年度にかけては「景気の先行き不透明」が増加。

<設備投資「有」とした企業の割合(実績見込と当初計画、全産業)>



(注1) 前回調査と今回調査で連続して回答を得られた企業を対象に集計。(注2) 各調査時点ごとの回答企業は、完全には一致していないため、設備投資実施企業の割合は厳密には連続していない。今回回答企業数：全産業3,125、製造業1,098、非製造業2,027